

主编 / 朱凤山 韩红

精编中医针灸基础

● 白山出版社

前 言

针灸学是中医学和世界医学的重要组成部分。几千年来，针灸医学对中国人民乃至世界一些国家的医疗保健事业作出了重大贡献，并将继续产生积极而广泛的影响。

针灸学是以中医基本理论为指导，以经络腧穴为内容，运用针刺和艾灸等方法防治疾病的一门临床学科，具有很高的理论性和实践性。

在多年的中医针灸教学和临床实践中，我们发现学科越分越细，教材越编越厚。这是科学发展和学术丰富的一个重要标志。但对于初学者特别是社会广大爱好者无疑是一种很重的负担，他们非常需要目前中医针灸所缺少的一本全面、精练、科学、准确的综合教材。为此，我们特地编写了这本《精编中医针灸基础》。

本书将中医的阴阳、五行、藏象、气血津液学说，经络，腧穴，病因病机，诊法，辨证，治则，取穴，刺灸方法及常见病的针灸治疗等重要基础理论内容融为一体，取其精华实用，重新排序，系统论述，力求通俗易懂，简明实用，一书在手，便可学会中医诊断、针灸治疗。

本书按照高等院校中医针灸专业教学大纲要求内容编写，参考了《中医基础理论》、《中医诊断学》、《经络学》、《腧穴学》、《刺灸法学》、《针灸学》和《针灸治疗学》、《国际针灸腧穴标准化方案》等有关教材资料。对体表经穴和耳穴的定位，采用了最新的国际标准化方案，使本书具有较强的科学性、准确性和先进性。希望本书的出版，能为弘扬祖国医学和促进中医、针灸事业的发展

展起到积极的作用。

本书适合于医学院校本科、大专生，临床医生，社会办学，自学成才，家庭保健，出国留学和爱好针灸的各类人员使用。是初学中医针灸和临床应用的最佳读本。

本书在编辑和出版过程中，得到了辽宁中医学院领导的热情关怀和支持，在此，致以深深的谢意。

编 者

1994年9月于沈阳

目 录

第一章 阴阳学说	(1)
一、阴阳的基本概念.....	(1)
二、阴阳学说的基本内容.....	(1)
(一) 阴阳的对立制约	(1)
(二) 阴阳的互根互用	(2)
(三) 阴阳的消长平衡	(2)
(四) 阴阳的相互转化	(3)
三、阴阳学说在中医针灸中的应用.....	(3)
(一) 说明人体的组织结构	(3)
(二) 说明人体的生理功能	(4)
(三) 说明人体的病理变化	(4)
(四) 用于疾病的诊断	(4)
(五) 用于指导疾病的治疗	(5)
第二章 五行学说	(6)
一、五行的概念.....	(6)
二、五行的特性.....	(6)
三、自然界事物及人体脏腑组织器官等的五行归类.....	(6)
四、五行的相生相克.....	(7)
五、五行的相乘相侮.....	(8)
六、五行学说在中医针灸中的应用.....	(9)
(一) 说明五脏的生理功能及其相互关系	(9)
(二) 说明五脏病变的相互影响.....	(10)
(三) 用于诊断和治疗.....	(11)

第三章 藏象学说	(13)
一、藏象的基本概念	(13)
二、脏腑的生理特点	(13)
三、五脏的生理功能	(14)
(一) 心	(14)
附：心包络	(16)
(二) 肺	(16)
(三) 脾	(18)
(四) 肝	(20)
(五) 肾	(22)
附：命门	(25)
四、六腑的生理功能	(26)
(一) 胆	(26)
(二) 胃	(26)
(三) 小肠	(27)
(四) 大肠	(28)
(五) 膀胱	(28)
(六) 三焦	(28)
五、奇恒之府的生理功能	(29)
(一) 脑	(29)
(二) 女子胞	(30)
(三) 髓、骨、脉	(30)
六、脏腑之间的关系	(30)
(一) 五脏之间的关系	(30)
(二) 六腑之间的关系	(34)
(三) 五脏与六腑之间的关系	(35)
第四章 气、血、津液学说	(37)

一、概念	(37)
二、气的生成、功能及其分布与分类	(37)
(一) 气的基本概念	(37)
(二) 气的生成	(38)
(三) 气的生理功能	(38)
(四) 气的分布与分类	(39)
三、血的生成、功能及其运行	(41)
(一) 血的基本概念	(41)
(二) 血的生成	(41)
(三) 血的功能	(41)
(四) 血的运行	(42)
四、津液的生成、代谢和功能	(42)
(一) 津液的基本概念	(42)
(二) 津和液的区别	(42)
(三) 津液的生成和代谢	(42)
(四) 津液的功能	(43)
五、气、血、津液之间的相互关系	(43)
(一) 气和血的关系	(43)
(二) 气和津液的关系	(44)
(三) 血和津液的关系	(45)
 第五章 经络学说	 (46)
一、经络的概念	(46)
二、经络学说的形成	(46)
三、经络的命名	(48)
四、经络系统的内容	(49)
(一) 十二经脉	(49)
(二) 奇经八脉	(51)
(三) 十五络脉	(52)

(四) 十二经别·····	(52)
(五) 十二经筋·····	(53)
(六) 十二皮部·····	(53)
五、经络的生理功能 ·····	(54)
(一) 沟通表里上下, 内联脏腑器官, 外络肢节 ·····	(54)
(二) 运行气血, 濡养脏腑组织·····	(54)
(三) 传导感应, 传注病邪, 反应症候·····	(54)
(四) 平衡阴阳, 调节脏腑机能·····	(54)
六、经络学说在临床上的应用 ·····	(55)
(一) 说明病理变化·····	(55)
(二) 指导诊断·····	(55)
(三) 指导临床治疗·····	(56)
七、十四经脉循行路线 ·····	(56)
(一) 手太阴肺经脉·····	(56)
(二) 手阳明大肠经脉·····	(56)
(三) 足阳明胃经脉·····	(57)
(四) 足太阴脾经脉·····	(60)
(五) 手少阴心经脉·····	(60)
(六) 手太阳小肠经脉·····	(60)
(七) 足太阳膀胱经脉·····	(62)
(八) 足少阴肾经脉·····	(63)
(九) 手厥阴心包经脉·····	(63)
(十) 手少阳三焦经脉·····	(66)
(十一) 足少阳胆经脉·····	(68)
(十二) 足厥阴肝经脉·····	(69)
(十三) 督脉·····	(72)
(十四) 任脉·····	(72)
八、十四经脉主要病证 ·····	(73)

第六章 腧 穴	(75)
一、腧穴的概念	(75)
二、腧穴的形成	(75)
三、腧穴的分类及命名	(76)
(一) 腧穴的分类	(76)
(二) 腧穴的命名	(76)
四、腧穴的作用及主治规律	(77)
(一) 腧穴的作用	(77)
(二) 腧穴的主治规律	(78)
五、腧穴的定位方法	(79)
(一) 体表解剖标志定位法	(79)
(二) “骨度”折量定位法	(79)
(三) 指寸定位法	(81)
六、十四经腧穴标准定位、主治与刺法	(82)
(一) 手太阴肺经穴	(82)
(二) 手阳明大肠经穴	(85)
(三) 足阳明胃经穴	(89)
(四) 足太阴脾经穴	(98)
(五) 手少阴心经穴	(102)
(六) 手太阳小肠经穴	(104)
(七) 足太阳膀胱经穴	(108)
(八) 足少阴肾经穴	(121)
(九) 手厥阴心包经穴	(126)
(十) 手少阳三焦经穴	(128)
(十一) 足少阳胆经穴	(133)
(十二) 足厥阴肝经穴	(141)
(十三) 督脉穴	(144)
(十四) 任脉穴	(150)

七、经外奇穴标准定位、主治与刺法.....	(154)
(一) 头颈部穴	(154)
(二) 胸腹部穴	(158)
(三) 背部穴	(159)
(四) 上肢穴	(161)
(五) 下肢穴	(164)
八、特定穴及其应用.....	(167)
(一) 五输穴	(168)
(二) 俞、募穴	(169)
(三) 原、络穴	(170)
(四) 八脉交会穴	(171)
(五) 八会穴	(172)
(六) 下合穴	(172)
(七) 郄穴	(172)
第七章 致病因素	(174)
一、六淫.....	(174)
(一) 风	(175)
(二) 寒	(175)
(三) 暑	(176)
(四) 湿	(176)
(五) 燥	(177)
(六) 火(热)	(177)
二、疠气.....	(178)
三、七情内伤.....	(178)
(一) 七情与内脏气血的关系	(178)
(二) 七情致病的特点	(178)
四、饮食、劳逸.....	(179)
(一) 饮食失常	(179)

(二) 劳逸损伤	(180)
五、外伤	(180)
六、痰饮、瘀血	(180)
(一) 痰饮	(180)
(二) 瘀血	(181)
第八章 发病机理	(182)
一、正邪斗争	(182)
二、阴阳失调	(183)
三、升降失常	(183)
四、脏腑病临床常见症状及其发病机理	(184)
(一) 心病临床常见症状及其发病机理	(184)
(二) 肺病临床常见症状及其发病机理	(186)
(三) 脾病临床常见症状及其发病机理	(186)
(四) 肝病临床常见症状及其发病机理	(187)
(五) 肾病临床常见症状及其发病机理	(188)
(六) 胃病临床常见症状及其发病机理	(188)
(七) 胆病临床常见症状及其发病机理	(189)
(八) 小肠病临床常见症状及其发病机理	(189)
(九) 大肠病临床常见症状及其发病机理	(190)
(十) 膀胱病临床常见症状及其发病机理	(190)
(十一) 脑病临床常见症状及其发病机理	(190)
(十二) 女子胞病临床常见症状及其发病机理	(191)
第九章 诊 法	(192)
一、望诊	(192)
(一) 望神	(192)
(二) 望色	(193)
(三) 望形态	(194)

(四) 望头面五官	(194)
(五) 望皮肤	(196)
(六) 望舌	(196)
(七) 望排出物	(200)
(八) 望小儿指纹	(200)
二、闻诊	(201)
(一) 听声音	(201)
(二) 嗅气味	(202)
三、问诊	(202)
(一) 问寒热	(203)
(二) 问汗	(204)
(三) 问痛	(205)
(四) 问睡眠	(209)
(五) 问饮食口味	(209)
(六) 问二便	(210)
(七) 问经带	(211)
(八) 问小儿	(212)
四、脉诊	(213)
(一) 脉诊的部位	(213)
(二) 脉诊的方法	(213)
(三) 正常脉象	(214)
(四) 病脉与主病	(214)
(五) 相兼脉与主病	(218)
(六) 脉证顺逆与从舍	(219)
五、按诊	(220)
(一) 按肌表	(220)
(二) 按脘腹	(220)
(三) 按经脉腧穴	(221)

第十章 辨 证	(224)
一、八纲辨证.....	(224)
(一) 表里辨证	(225)
(二) 寒热辨证	(226)
(三) 虚实辨证	(227)
(四) 阴阳辨证	(228)
二、脏腑辨证.....	(229)
(一) 心与小肠辨证	(230)
(二) 肺与大肠辨证	(231)
(三) 脾与胃辨证	(233)
(四) 肝与胆辨证	(234)
(五) 肾与膀胱辨证	(236)
(六) 脏腑兼病辨证	(237)
三、经络辨证.....	(239)
(一) 手太阴肺经证候	(240)
(二) 手阳明大肠经证候	(240)
(三) 足阳明胃经证候	(240)
(四) 足太阴脾经证候	(240)
(五) 手少阴心经证候	(240)
(六) 手太阳小肠经证候	(241)
(七) 足太阳膀胱经证候	(241)
(八) 足少阴肾经证候	(241)
(九) 手厥阴心包经证候	(241)
(十) 手少阳三焦经证候	(242)
(十一) 足少阳胆经证候	(242)
(十二) 足厥阴肝经证候	(242)
(十三) 督脉证候	(242)
(十四) 任脉证候	(242)

第十一章 针灸治疗、取穴原则	(244)
一、针灸治疗原则	(244)
(一) 补虚泻实	(244)
(二) 清热温寒	(244)
(三) 标本论治	(244)
(四) 同病异治与异病同治	(245)
(五) 局部与整体	(245)
二、针灸取穴原则	(246)
(一) 近端取穴	(246)
(二) 远道取穴	(246)
(三) 对症取穴	(246)
(四) 痛点取穴	(246)
第十二章 刺灸方法	(247)
一、毫针	(247)
(一) 毫针的构造、规格及维修保养	(247)
(二) 针刺前的准备	(248)
(三) 毫针刺法	(248)
(四) 针刺的角度和深度	(251)
(五) 行针与得气	(252)
(六) 针刺补泻	(253)
(七) 留针与出针	(255)
(八) 针刺异常情况的处理与预防	(256)
(九) 针刺注意事项	(258)
二、灸法	(259)
(一) 常用灸法	(259)
(二) 施灸禁忌	(262)
(三) 灸后护理	(262)
三、其他针	(262)

(一) 三棱针	(262)
(二) 皮肤针	(263)
(三) 皮内针	(264)
(四) 电针	(265)
四、头针	(266)
(一) 头穴的定位和主治	(266)
(二) 头针的操作方法	(271)
五、耳针	(271)
(一) 耳廓的大体解剖	(271)
(二) 耳穴的分布规律	(271)
(三) 常用耳穴的定位和主治	(271)
(四) 耳穴针刺的操作方法	(272)
(五) 常用耳穴的定位和主治病症参考表	(275)
第十三章 常见病的针灸治疗	(281)
一、中风	(281)
二、面瘫	(284)
三、头痛	(285)
(附: 三叉神经痛)	(288)
四、眩晕	(288)
五、失眠	(290)
六、痹证	(291)
(附: 1. 肩关节周围炎、2. 坐骨神经痛)	(293)
七、痿证	(295)
(附: 多发性神经炎)	(296)
八、腰痛	(296)
九、惊悸	(298)
十、郁证	(299)
十一、癲狂	(300)

十二、痢证	(302)
十三、咳嗽	(303)
十四、哮喘	(305)
十五、胃痛	(307)
十六、腹痛	(309)
十七、泄泻	(310)
(附：痢疾)	(312)
十八、便秘	(312)
(附：脱肛)	(313)
十九、隆闭	(314)
二十、遗精	(315)
(附：阳痿)	(316)
二十一、月经不调	(317)
二十二、痛经	(320)
二十三、乳少	(321)
二十四、肠痈	(323)
二十五、蛇丹	(323)
二十六、耳鸣 耳聋	(325)
二十七、咽喉肿痛	(326)
二十八、牙痛	(327)
二十九、近视	(328)
三十、高热	(329)
三十一、晕厥	(329)
三十二、急痛	(331)
三十三、出血	(332)
三十四、痉证	(334)
三十五、脱证	(335)

第一章 阴阳学说

一、阴阳的基本概念

阴阳，是对自然界相互关系的某些事物和现象对立双方的概括。它既可以代表两个相互对立的事物，也可以代表同一事物内部所存在的相互对立的两个方面。宇宙间的任何事物，都包含着阴、阳相互对立的两个方面，如白昼与黑夜，晴天与阴天，炎热与寒冷，活动与静止等等。一般地说，凡是活动的、外在的、上升的、温热的、明亮的、功能的、机能亢进的，都属于阳；沉静的、内在的、下降的、寒冷的、晦暗的、物质的、机能衰减的，都属于阴。例如，从事物属性来看，“天为阳，地为阴”；从事物的运动变化来看，“静者为阴，动者为阳”。根据阴阳所代表的不同功能和属性，医学上常把对人体具有推动温煦作用的气称之为“阳”，而把对人体具有营养、滋润作用的血称之为“阴”。

事物的阴阳属性并不是绝对的，而是相对的。这种事物的相对性，一方面表现为在一定的条件下，阴阳可以相互转化，阴可以转化为阳，阳也可以转化为阴；另一方面则表现为事物无穷的可分性。例如，昼为阳，夜为阴，而上午为阳中之阳，下午则为阳中之阴；前半夜为阴中之阴，后半夜则为阴中之阳。阴阳之中仍有阴阳可分。宇宙间的任何事物都可以概括为阴和阳两类，任何一种事物内部又可分为阴和阳两个方面，而每一事物中的阴或阳的任何一方，还可以再分阴阳。

二、阴阳学说的基本内容

（一）阴阳的对立制约

阴阳学说认为自然界一切事物都存在着相互对立的阴阳两个

方面。例如，夏季本来是阳热盛，但夏至以后阴气却渐次以生，用以制约炎热的阳；而冬季本来是阴寒盛，但冬至以后阳气却随之而复，用以制约严寒的阴。

阴阳两个方面的相互对立、相互制约、相互对抗，普遍存在于一切事物或现象之中。阴与阳通过相互制约和相互对抗，取得统一，达到阴阳之间的相对动态平衡，促进自然界一切事物的发展变化这一规律，同时也贯穿于人体生命过程的始终。基于此，事物才能不断地发展，自然界才会生生不息，生物才有生长化收藏和生长壮老死的变化，机体才能进行正常的生命活动。人体的正常生理状态是处在阴阳动态平衡之中，《内经》称之为“阴平阳秘”。如果这种动态平衡遭到破坏，就会导致疾病的发生。

（二）阴阳的互根互用

阴阳学说认为阴阳的两个方面，不仅是相互对立，而且又是相互依存，相互为用的。阴依存于阳，阳依存于阴，双方均以对方存在为自己存在的前提。阴阳这种相互依存的关系，称之为阴阳互根。如天为阳，地为阴。没有天，就无所谓地；没有地，就无所谓天。昼为阳，夜为阴。没有昼，就无所谓夜；没有夜，就无所谓昼。热为阳，寒为阴。没有热，就无所谓寒；没有寒，就无所谓热。阴阳必须保持相对的平衡协调，才能维持人体正常生理活动，其中任何一方都不能脱离另一方而单独存在。人体的机能活动（阳）和营养物质（阴）是相互依存的，若双方失去了相互依存的条件，就会出现有阴无阳或有阳无阴，而最终导致阴阳均无，即所谓：“孤阴不生，独阳不长”，机体生生不息之机就会遭到破坏，出现“阴阳离决，精气乃绝”而死亡，所属事物也就不复存在了。

（三）阴阳的消长平衡

阴阳消长，是说相互对立、相互依存的阴阳双方不是处于静止不变的状态，而是处于“阳消阴长”或“阴消阳长”的运动变化之中。例如，四季气候的变化，从冬至春及夏，气候由寒逐渐